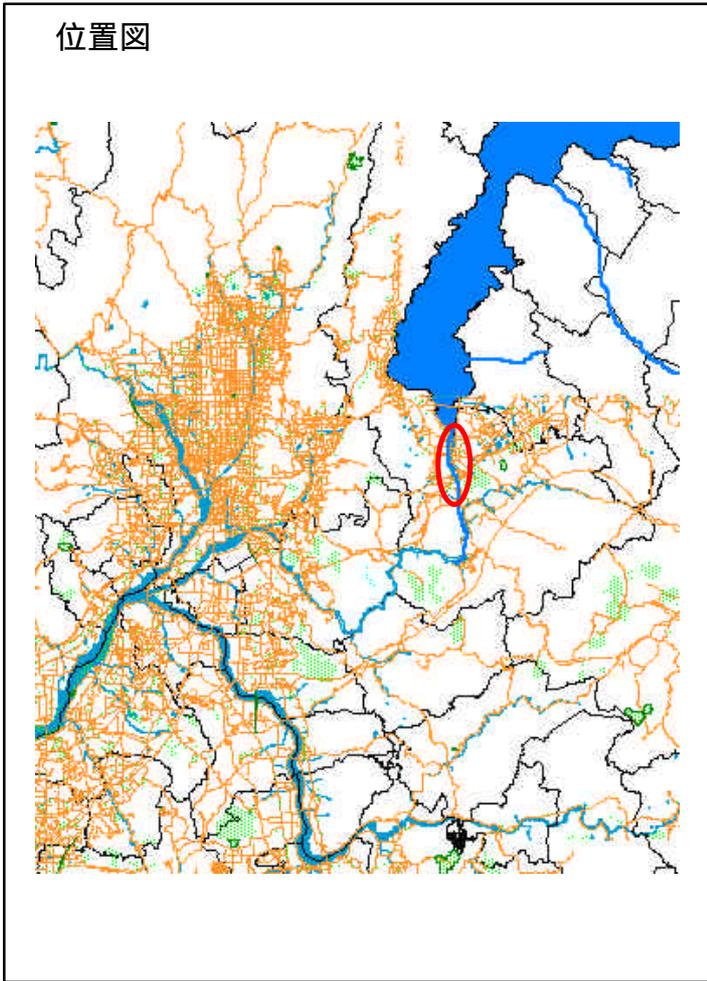


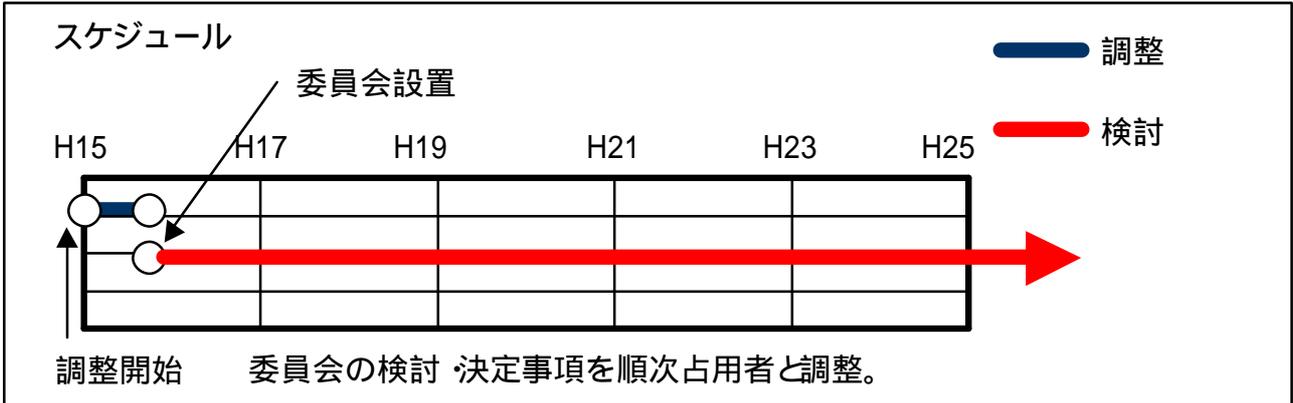
説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.5.1	ページ	p.52	行	26行目
事業名	瀬田川水辺利用者協議会(仮称)の設置		河川名	淀川本川(瀬田川)			
府県	滋賀県	市町村	大津市		地先		

現状の課題
 水面利用のための多数の棧橋や係留施設が、水辺の利用・景観を妨げている。

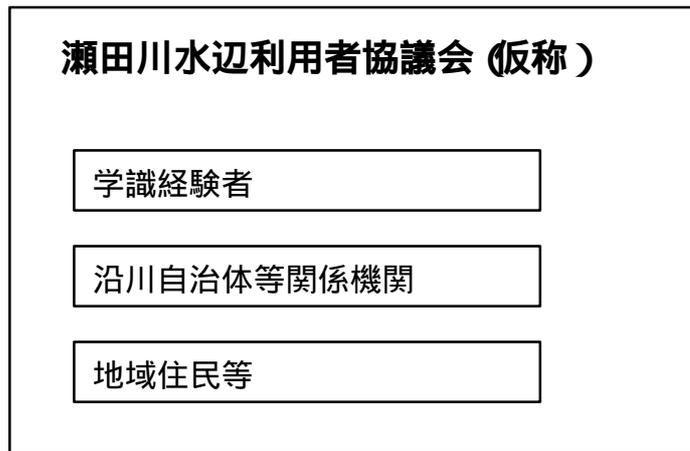
河川整備の方針
 瀬田川では、水面利用に伴う施設のあり方について、地元住民や住民団体と調整を図る。



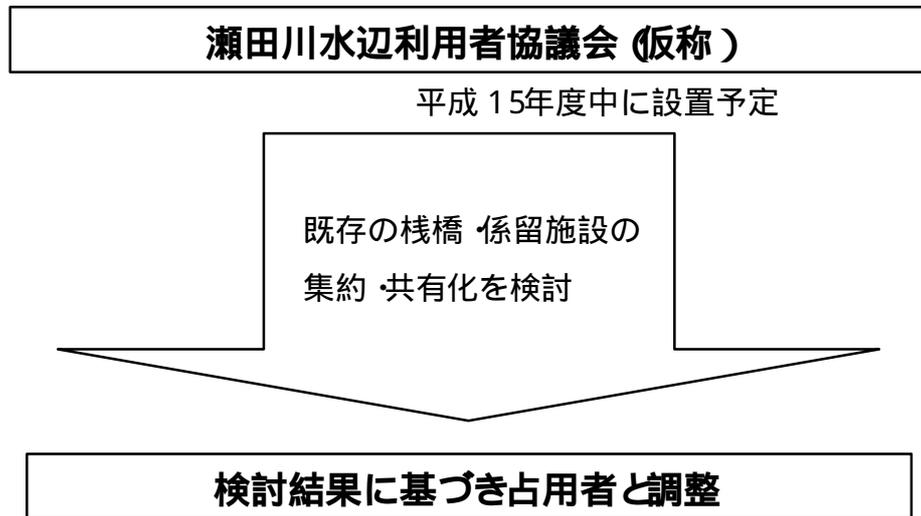
具体的な整備内容
 瀬田川では、学識経験者、沿川自治体等関係機関及び地域住民等からなる瀬田川水辺利用者協議会(仮称)を設置し、既存の棧橋・係留施設の集約・共有化並びに水辺のあり方を検討する。



体制図



フローチャート



整備効果

棧橋や係留施設の集約化・共有化による効果

棧橋や係留施設の集約化及び共有化による景観
の回復

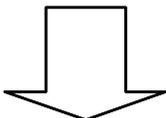
地域特性に配慮した景観の実現

一般利用者や沿川住民の水辺利用における効用
(水辺の利用しやすさ、景観 等)

提案理由 (代替案含む)

多数の棧橋や係留施設による諸問題

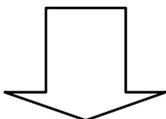
景観を妨げている。
水辺の利用を妨げている。



提言

利用者・利用者同士・管理者が、お互いに意志の疎通を図ったうえで、相互に調整を行い、独占的・排他的利用の制限など、適切な河川利用についての仕組みづくりを行う必要がある。

河川の利用に係る諸権利 (占有権等) については、一定期間ごとに見直しを実施し、時代の変化に対応していかなければならない。



瀬田川水面利用委員会 (仮称) の設置

既存の棧橋や係留施設の集約化・共有化の検討
上記とあわせて、水辺のあり方についての検討

説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.5.1	ページ	p. 52	行	30行目
事業名	円滑な水面利用の確保		河川名	桂川・木津川			
府 県	京都府	市町村	沿川市町村	地先			

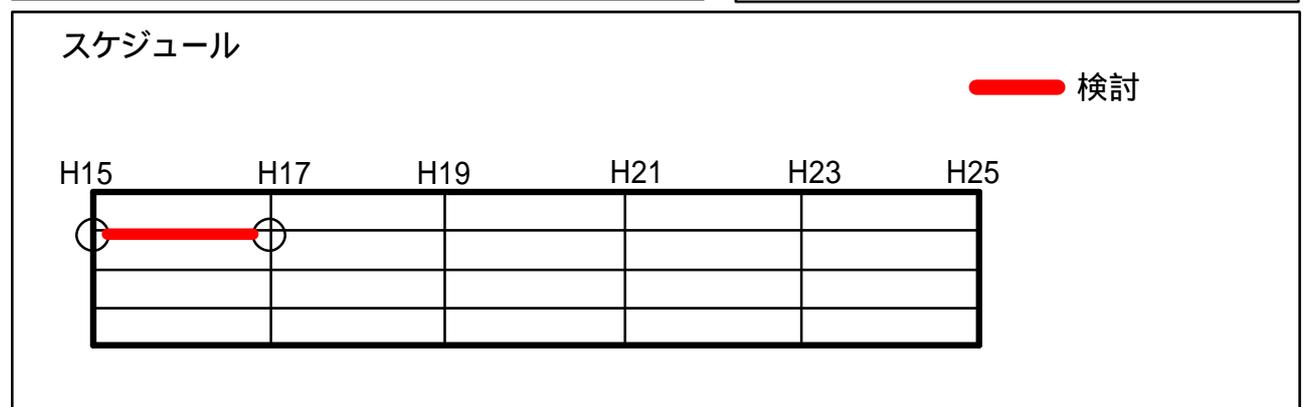
現状の課題
 カヌーや手漕ぎボート等による水面利用では、水辺へのアプローチの困難性や堰等の横断工作物による障害等、円滑な利用に支障が出ている。

河川整備の方針
 カヌーや手漕ぎボート等による円滑な水面利用を実現するため、水辺へのアプローチの困難性や堰等の横断工作物による障害等の改善を図る。



具体的な整備内容
 カヌーや手漕ぎボート等による円滑な水面利用を実現するため、利用者が多い箇所では、水辺へのアプローチの困難性や堰等の横断工作物による障害等の改善を検討する。

検討内容
 「5.2.1(2)縦断方向の河川形状の修復の検討にあわせて円滑な利用面でのアプローチ整備や堰等の横断工作物の改善を検討する。」



概念

水辺へのアプローチの困難性 や堰等の横断構造物による障害等

水辺の円滑な利用のために



アプローチ整備や横断工作物の改善を検討



流路が分断
6号井堰 (桂川)



魚道未設置
6号井堰 (桂川)



縦断的非連続
3号井堰 (桂川)

整備効果

障害等の改善効果

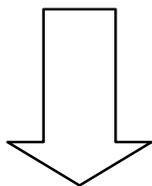
カヌーや手漕ぎボート等の水面利用者の利便性の向上

迷惑な水面へのアプローチ等、河川環境に影響を及ぼすような無秩序な利用の改善

提案理由 (代替案含む)

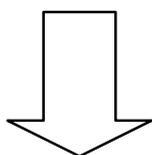
カヌーや手漕ぎボート等の利用における諸問題

水辺へのアプローチの困難性
無秩序なアプローチによる河川環境破壊の危惧
堰等の横断工作物による障害等



提言

川でなければできない利用」, 例えば、(途中省略)
水泳、カヌーなどは、川本来の機能を損なわないかぎり
において、促進を図るべきである。



カヌーや手漕ぎボートの円滑な利用の実現

利用者の人数、河川環境への影響、沿川住民への影響等に配慮のうえ、水辺へのアプローチ箇所を整備する。

障害となる堰等の横断工作物は、治水、利水及び河川環境を考慮のうえ、障害等の改善を検討する。

説明資料 (第2稿)での記載箇所	章項目	5.5.2	ページ	p.53	行	2行目
事業名	河川保全利用委員会 (仮称)		河川名	全河川 (直轄管理区間)		
府 県	大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・三重県					

現状の課題

淀川流域では、高水敷において社会的要請に応え、公園、グランド等の整備が進められた。これら施設の中には、河川の生態系を縦断的に分断し、本来の川の姿を失わせるものもあり、河川の特性を活かした利用形態の見直しが求められている。

河川整備の方針

本来河川敷以外で利用するものについては、縮小していくことを基本とするが、既存施設が数多くの人に利用され、また存続等の要望も強くあることから、個々の案件毎に学識経験者、沿川自治体等関係機関や地域住民等の意見を聴き判断する。

位置図 (河川保全利用委員会設置単位)



具体的な整備内容

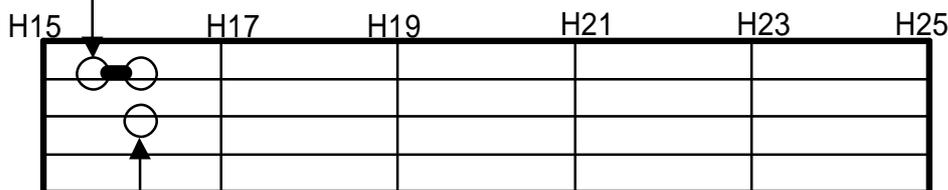
占用施設の新設及び更新の許可にあたっては、周辺環境、地域性に考慮し、川らしい自然環境を保全・再生することを重視し、学識経験者、沿川自治体等関係機関からなる河川保全利用委員会 (仮称)を設置し、地域住民等から広く意見を聴き、個々の案件毎に判断する。

設置単位

- 淀川本川
- 猪名川
- 宇治川
- 桂川
- 木津川下流
- 瀬田川
- 木津川上流
- 野洲川
- 草津川

スケジュール

調整開始 (準備会設立を含む)



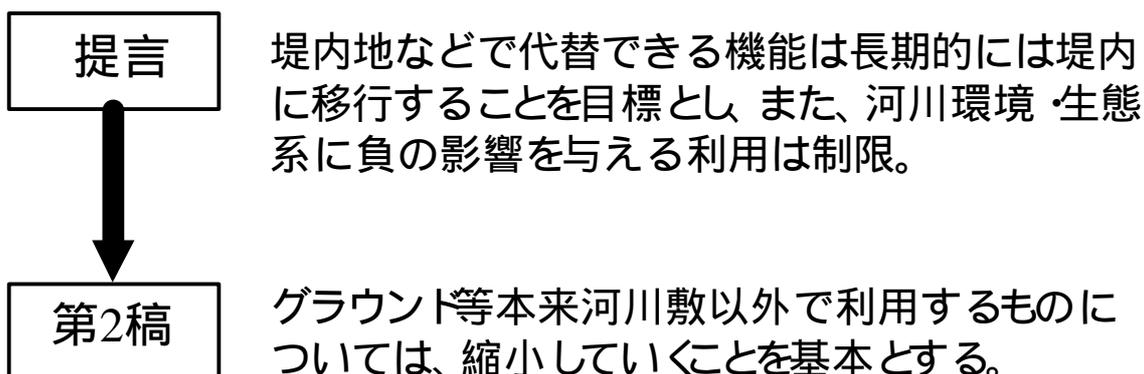
河川保全利用委員会設置

整備効果

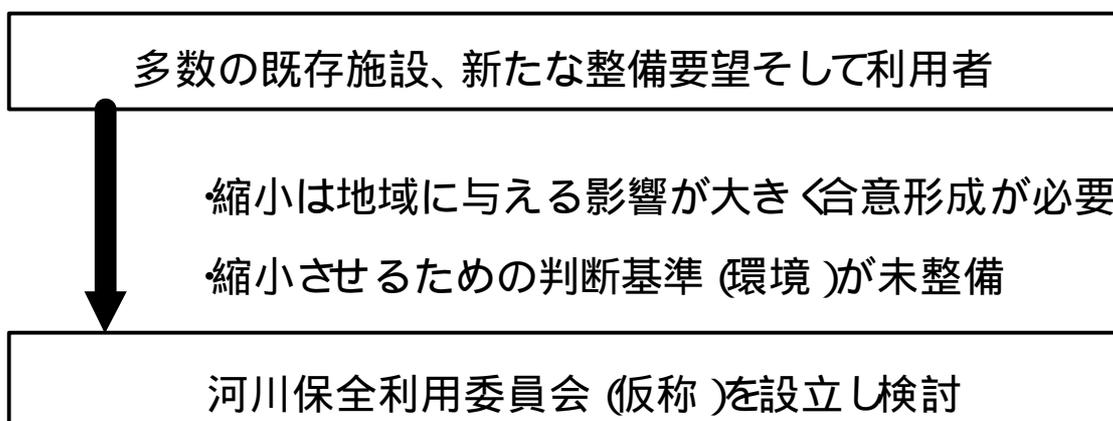
合意形成のもと地域の意向を踏まえた適正な利用

(分かりやすく工夫してください)

提案理由 (代替案含む)



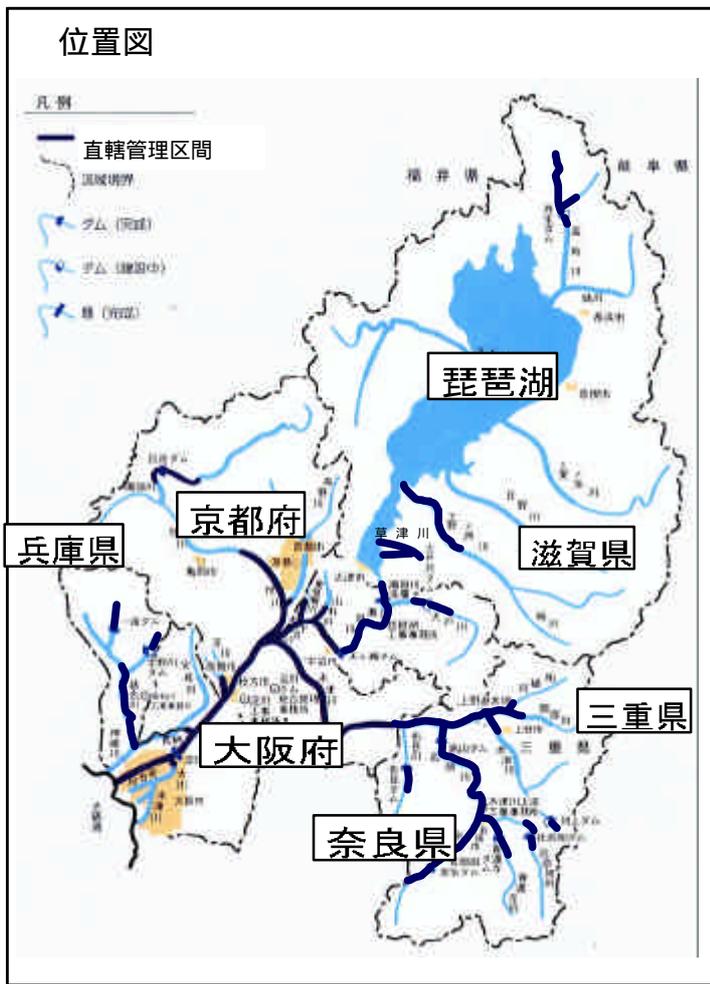
しかしながら・・・



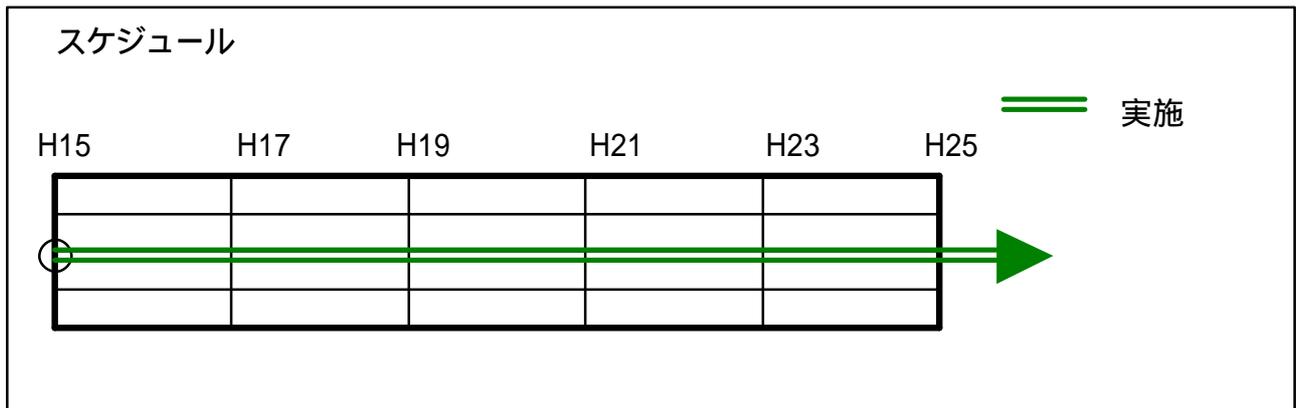
説明資料 (第2稿)での記載箇所	章項目	5.5.2	ページ	p.53	行	19行目
事業名	違法行為の対策		河川名	淀川水系各河川		
府 県	大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・三重県					

現状の課題
 堤外民有地での耕作や占用許可を受けた耕作など様々な耕作地が錯綜する中、違法な耕作も行われている。また、従来からの継続的な違法工作物が存在している。

河川整備の方針
 河川敷で違法に行われている耕作等の行為は、違法行為是正実施計画を立て早期の是正に努める。



具体的な整備内容
 年度毎に違法行為是正実施計画を立て実施する。



概要

【実施計画】

記載内容

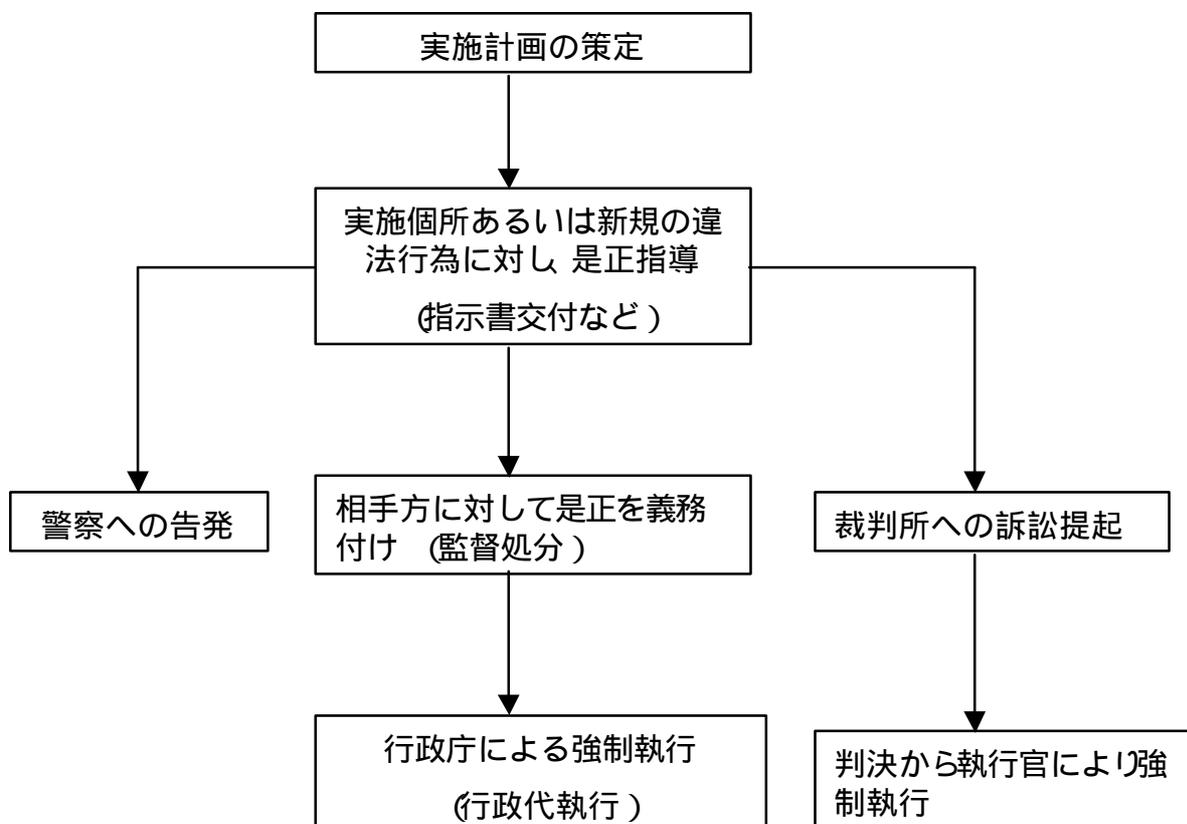
実施箇所、違法内容、優先順位、是正計画 (スケジュール)等

是正の優先順位

・違法行為は早期発見・早期是正が一番効果的なため、新規の違法行為については、優先して対応する。

・その他継続的な違法行為については、河川工事等の事業への支障度、河川管理上の支障度及び是正経過の熟度から判断して対応していく。

フローチャート



整備効果

年度毎の違法行為是正実施計画による是正効果

治水上の障害物の除去

河川環境の改善

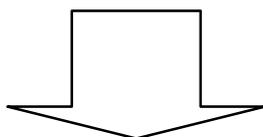
利用者間の不公平感の解消

違法行為に対する事前の抑止力

提案理由 (代替案含む)

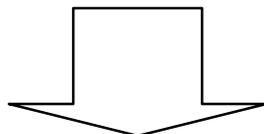
違法行為による諸問題

違法工作物の設置による治水上の影響懸念
違法工作物設置による河川環境への影響懸念
不法占用による利用者間の不公平感



提言

堤外公有地の不法居住・不法占有・不法耕作も早急に改善する。



年度毎の違法行為是正実施計画の策定

是正実施個所の選定
是正優先順位の検討
是正計画 (スケジュール) の作成

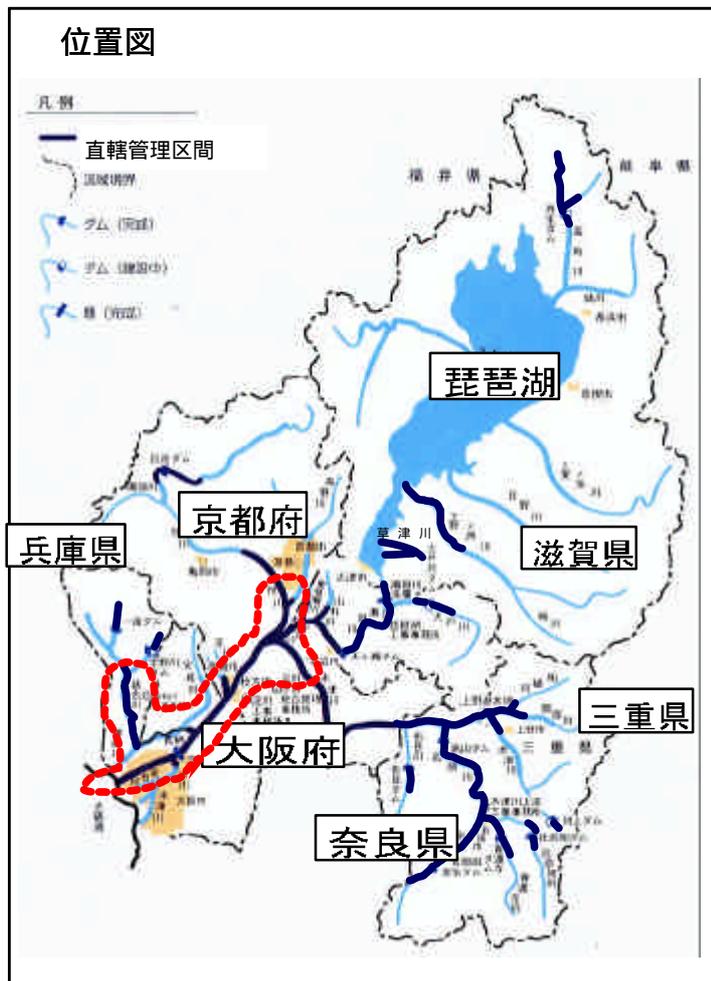
日常的な是正措置

違法行為の早期発見、早期是正に努める。

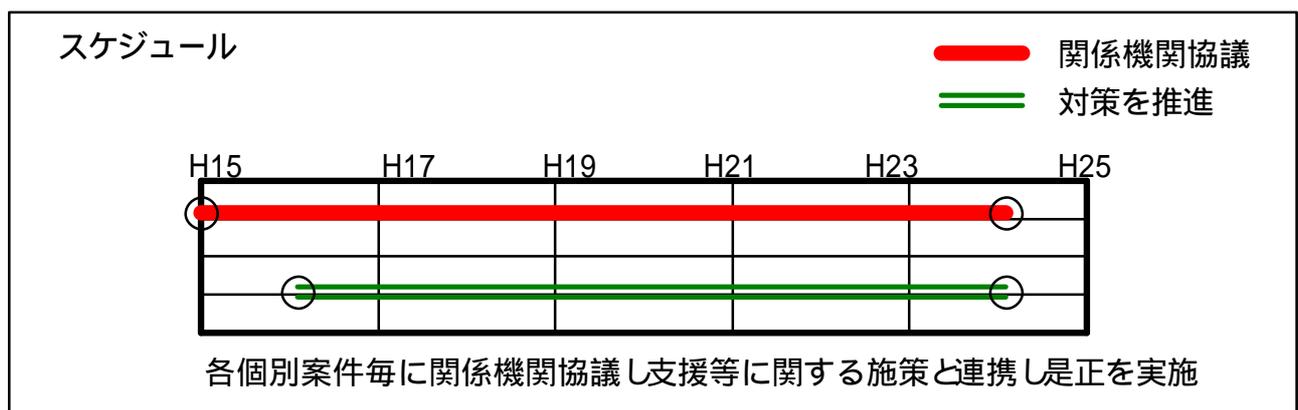
説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.5.2	ページ	p.53	行	21行目
事業名	ホームレス対策		河川名	淀川水系各河川			
府 県	大阪・兵庫・京都	市町村	沿川市町		地先		

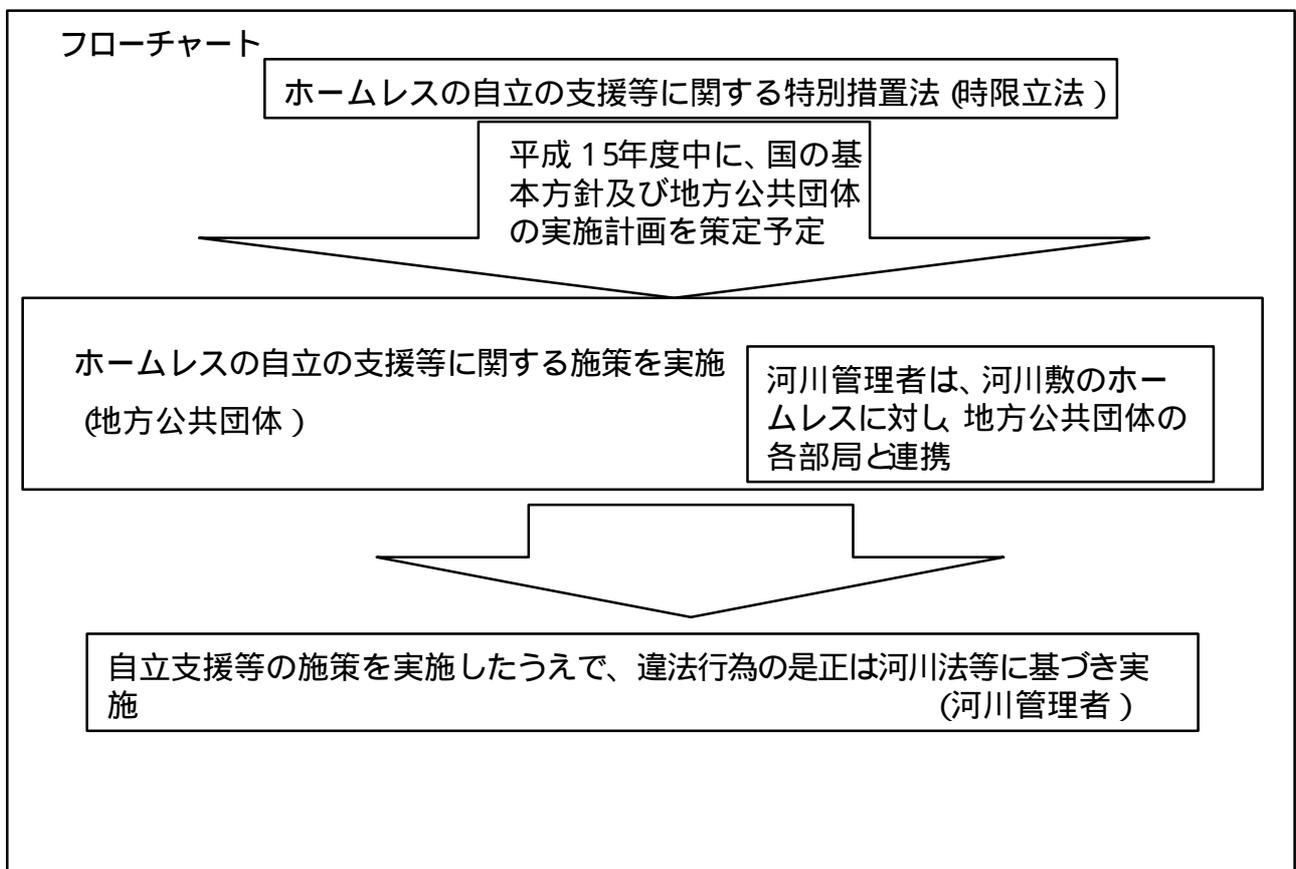
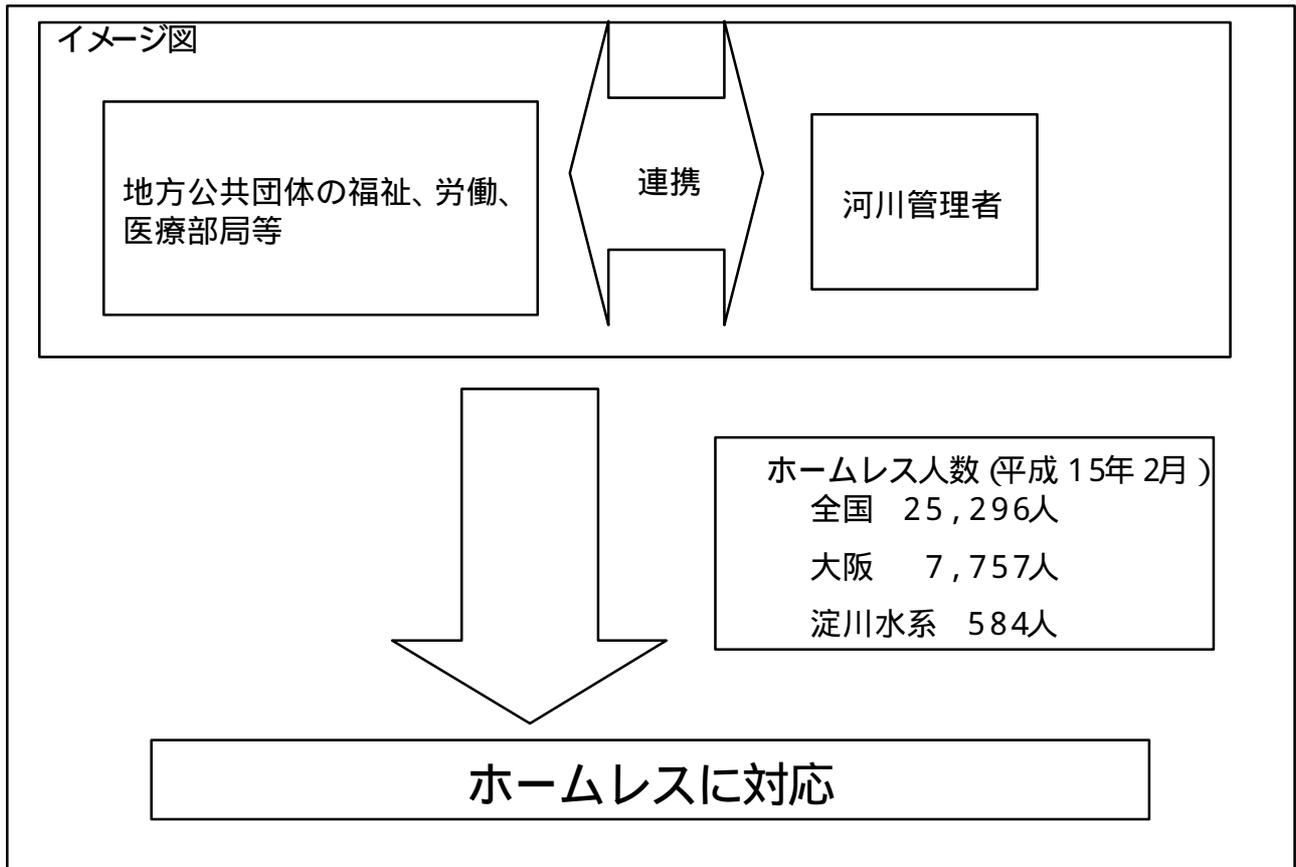
現状の課題
 近年、淀川下流区間などにおいて、ホームレスの増加が見られる。

河川整備の方針
 「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」(平成14年法律第105号)に基づき関係自治体と一体となって、河川敷地の適正な利用を図る。



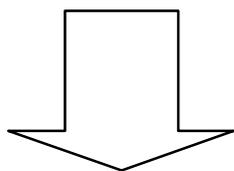
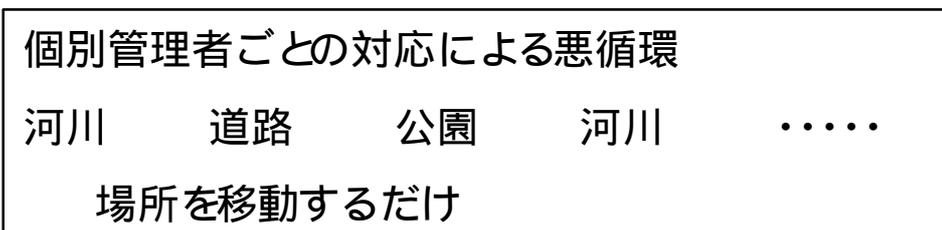
具体的な整備内容
 ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」(平成14年法律第105号)に基づき関係自治体と一体となって、河川敷地の適正な利用を図る。



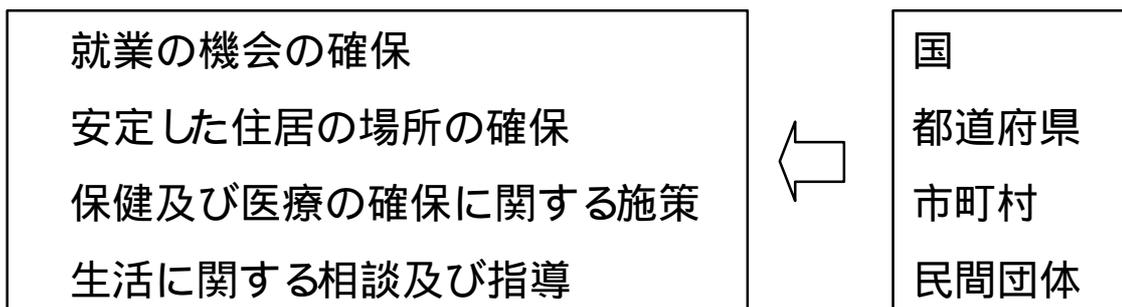


整備効果

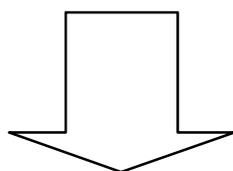
従来までの個別管理者ごとの対応



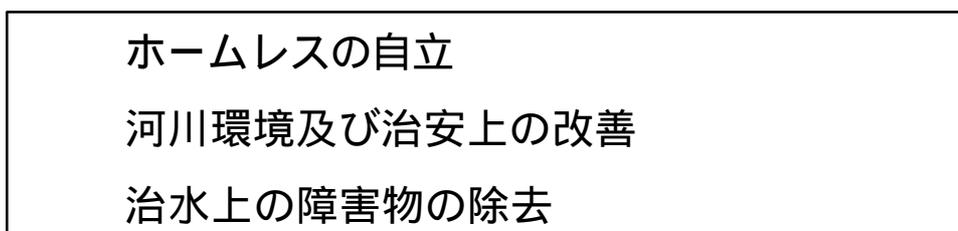
ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法 (平成 14 年法律第 105号)



協力して対応



法整備による効果



提案理由 (代替案含む)

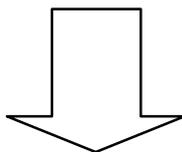
提言

堤外公有地の不法居住・不法占有・不法耕作も早急に解消する。

ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法 (平成 14 年法律第 105 号) の制定

第 13 条 国地方公共団体の連携

国及び地方公共団体は、ホームレスの自立の支援等に関する施策を実施するに当たっては、相互の緊密な連携の確保に努めるものとする。

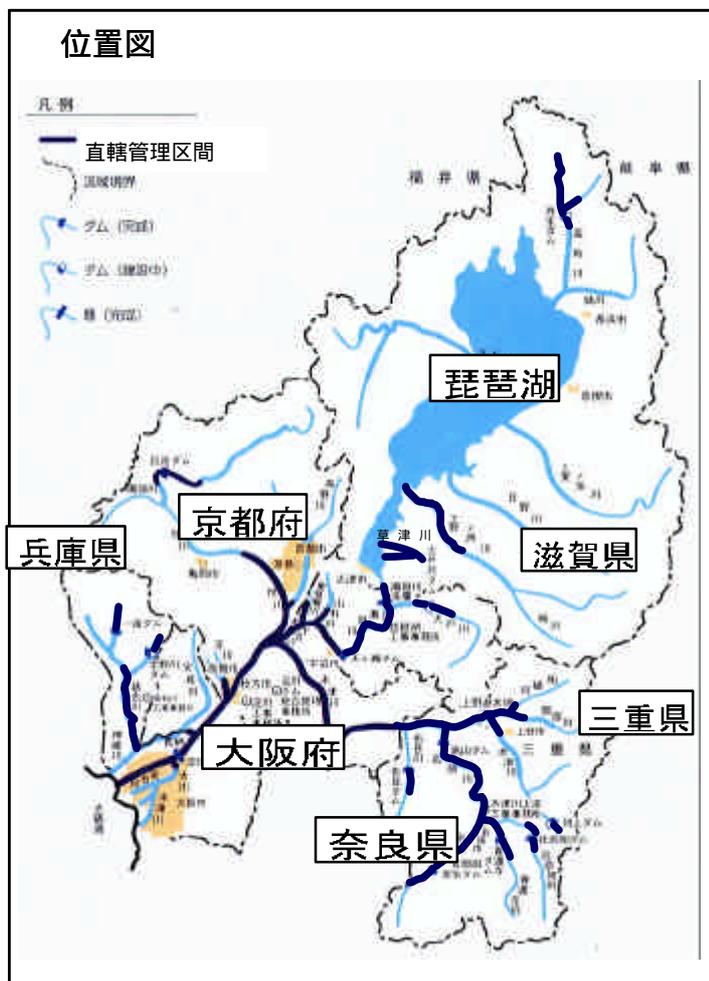


関係自治体と一体となって河川敷地の適正な利用を図る。

説明資料 (第2稿)での記載箇所	章項目	5.5.2	ページ	p.53	行	25行目
事業名	迷惑行為の対策		河川名	淀川水系各河川		
府 県	大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・三重県					

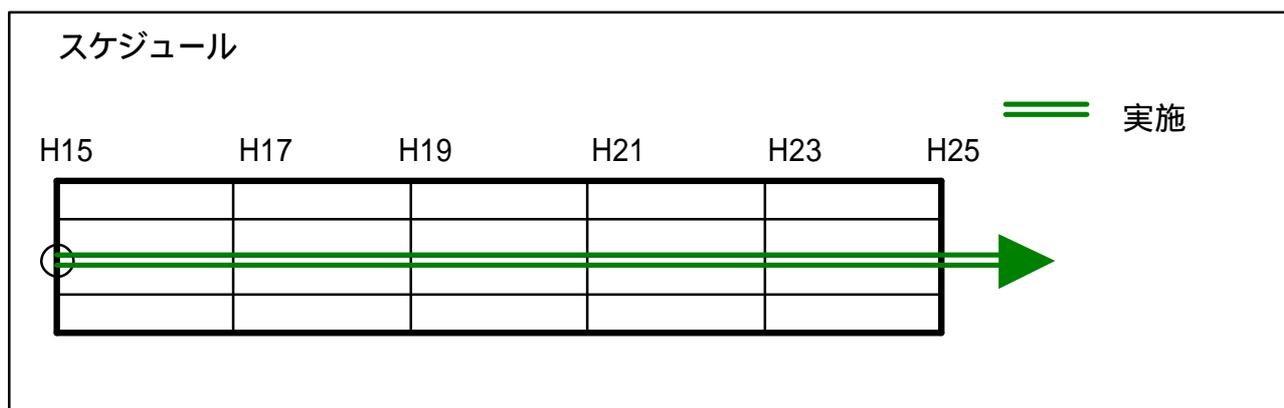
現状の課題
 一般利用者及び周辺住民にとって迷惑(騒音、危険行為等)となる場所において、ゴルフ、モトクロス及びラジコン等の行為が増加し苦情も多く発生している。

河川整備の方針
 迷惑行為の防止に向けた啓発活動を図る。



具体的な整備内容
 年度毎に啓発活動実施計画を立て実施する。

課題
 自治体、住民との連携



概要

【実施計画】

・記載内容

実施内容、実施個所、スケジュール等

・実施の目的

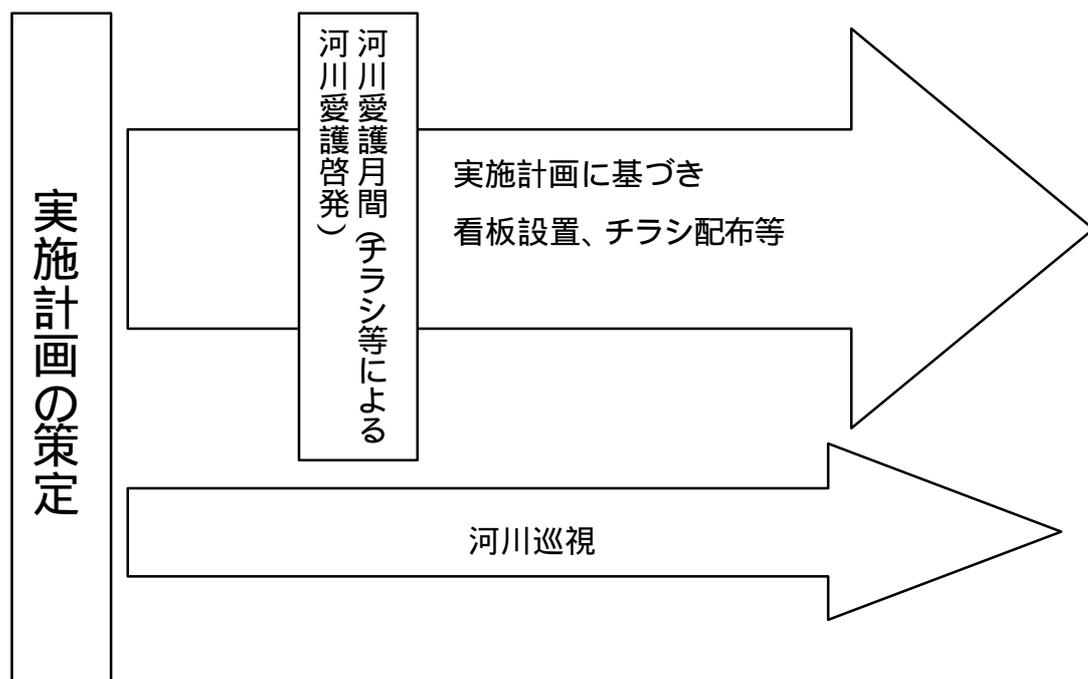
河川利用者や地域住民に対して、河川愛護の精神や秩序ある利用を啓発

・具体的実施内容

看板設置、チラシ配布、地域住民へのチラシ回覧、出前講座等



フローチャート



整備効果

計画的・継続的な啓発活動による効果

利用者、沿川住民及び河川管理者が、秩序ある河川の利用について、正しい情報を共有できる。

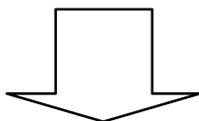
秩序ある自由使用の回復 (迷惑行為の撲滅)

秩序ある河川利用の実現

提案理由 (代替案含む)

自由使用による諸問題 (迷惑行為)

一般利用者に対する危険な行為
沿川住民に対する騒音
河川環境破戒に繋がる行為

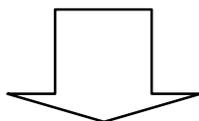


提言

河川環境・生態系に負の影響を与える利用は制限する。

適切な利用に向けた規制等の仕組みづくりについては、(途中省略)情報を共有することが必要である。

共有した情報をもとに、利用者・利用者同士・管理者が、お互いに意志の疎通を図ったうえで、相互に調整を行い、独占的・排他的利用の制限など、適切な河川利用についての仕組みづくりを行う必要がある。



年度毎の実施計画による啓発活動

利用者や地域住民に対して、秩序ある利用の精神を啓発 (情報を共有する。)

計画的及び継続的な啓発活動

日常的な啓発活動

迷惑行為の早期発見、早期是正に努める。